

たんぽぽ どうしん

第35号

〔編集人〕社会福祉法人 札幌協働福祉会／アクティビティ・サポートセンター協力会 牧野 秋夫
〒002-8071 札幌市北区あいの里1条6丁目1-2 TEL 011-770-5225 / FAX 011-770-5112
HP <http://sapporo-kyoudoufukusikai.jp> E-mail:info-honbu@sapporo-kyoudoufukusikai.jp
〔発行人〕北海道障害者団体定期刊行物協会 〔発行〕2015年10月10日発行(毎月10日発行) 〔定価〕20円



「おもいっきり夏休み in 北海道 2015」
自然体験学校開校式より山田校長の挨拶

体験が体験を創造する体験の効果 共に生きる・共に育つが実感されて

報告 おもいっきり夏休み in 北海道 2015

社会福祉法人 札幌協働福祉会 自然体験学校校長 山田 太郎

あれから5年目の夏を過ごしました。東日本大地震・それに伴う津波、あろうことか放射能漏れという原発被害を被った不幸な出来事。それは平成23年3月11日のことでした。直後、社会福祉法人札幌協働福祉会はいち早く災害救援に立ち上がりました。なかでも、現地の子どもたちの甲状腺被害からの救援のために「福島プロジェクト」を立ち上げました。具体的には、現地での救済活動、並びに子どもたちを対象に、夏休み・冬休み・春休みを放射能被害から遠ざけた生活を空気のきれいな北海道の自然の中で過ごしてもらおうための取り組みでした。仁木町冷水峠に所在する「山の家 きょうどう」(札幌協働福祉会の保養施設)を活動の拠点として自然体験学校を開校してきました。今年の夏は5年の積み重ねによる一層の成果を感じる事ができました。

これまでに「夏休み」を5回、「冬休み」を3回、「春休み」を1回開校してきました。自然体験学校のメニューは自然体験に視点を置いた内容に終始しています。普通学校と環境が大違いの特性を生かしてお

ります。「おもいっきりいい」体験ができる期待に胸を膨らませた子どもたちを、保護者は理解をもって送り出します。札幌協働福祉会の職員・地元の支援協力者の熱意と努力がこの事業を育てているのだと思います。言うなれば、札幌協働福祉会が標榜する「共に生きる」「共に育つ」の理念が一枚の絵になっているのだと思います。

学校運営の努力目標に「自主性自立性を身につける」も設定しております。小学生と中学生・高校生が入校してきます。学年はさまざまです。ということは、同学年関係はさることながら兄弟・姉妹意識が学習の協力協働化に生かされているようです。したがって、先輩が経験した経験の上に自分たちの経験した新たなものを積み重ねることができて、「体験が体験を創造する体験」の有り得ることを実感したのでした。

参加者・関係者一同に感謝しつつ、まずは報告の始めの言葉と致します。

《拓北・あいの里地域の行事予定》

■10月11日(日) どうしんあいの里こどもマラソン大会 場所：あいの里西公園

《札幌協働福祉会の行事予定》

■10月10日(土)～11日(日) 釣りとパークと観光の旅(浦河)

■10月25日(日) 拓北・あいの里福祉センター開設記念&アクティビティセンター創立20周年式典
場所：ガトーキングダムサッポロ

■10月30日(金) あいのさとジャズナイト 場所：拓北・あいの里地区センター



行事予定

フィンランドより カーリシルタ合唱団来道

日程
9/3(木)
9/9(水)

カーリシルタアクティビティーセンターがはるばるフィンランドからやってきました！
総勢 12 名のメンバーにより、歓迎会や収穫祭前夜祭、収穫祭、バスなどで美声を披露していただき、非常に素敵な時間を過ごしました。日本の歌「さくら」や「故郷」を日本語で歌っていただいたり、「よさこい」や「パラパラ」をユーザーの皆さんと一緒に踊ったり、たくさん交流ができました。



9/4(金)

前夜祭でパラパラチームに合わせて踊る



美しいハーモニーを披露



9/5(土)

辰田理事長と宮野常務理事も並んでコーラス



古い町並みが残る小樽市内を観光



小樽市内の寿司レストランで昼食



仁木町山の家で地域の方々にミニコンサート



9/7(月)

余市町の果樹園でフルーツ狩りを楽しむ



9/8(火)

サッポロファクトリーでショッピング



9/9(水)

早朝、新千歳空港から帰国される皆さん

9/4(金) アクティビティーセンター20周年記念 収穫祭の前夜祭

5日の「収穫祭」に先立ち、4日午後3時45分から「拓北・あいの里地区センター」で「アクティビティーセンター20周年記念・収穫祭の前夜祭」が開かれました。2部構成で行われ、法人のユーザーさんと編成された歌、演劇、踊りのグループが次々に出演し会場は盛り上がりしました。また、今回の20周年記念に合わせ、前日来道した

フィンランドのカーリシルタアクティビティーセンターの皆さんが第2部で登場。十数曲を来場者の前で発表しました。その澄んだハーモニーで歌い上げる楽曲に会場は魅了され、さらに最終曲の「黒猫のタンゴ」では会場とステージが一緒になりました。



アクターズの演劇



カーリシルタアクティビティーセンターからのプレゼント



あいの里連合町内会松井会長が挨拶



ずっこけダンス
チームが乱舞



祭り会場づくりが
みんなの手で

9/5(土) 第21回収穫祭

9月5日、晴れ時々わか雨。札幌協働福祉会主催の秋の恒例行事「第21回収穫祭」は今回、アクティビティーセンターの開設20周年の記念イベントも兼ね盛大に本部特設会場で大勢の来場者を迎えて開かれました。さらに開設当初から友好提携をしているフィンランドのカーリシルタアクティビティーセンターの皆さんも今回のイベントにお招きし、国際色豊かな「収穫祭」になりました。



協力会牧野会長(左)と宮野常務理事の挨拶



天候も回復し、にぎわった収穫祭会場



いよいよ開会宣言



サッポロ・インディゴ・ウインズの楽しい演奏



さっぽろ五郎連の阿波踊り



注文に追われる焼き鳥の担当者



人気の野菜即売コーナー



盛り上がった抽選会

インタビュー 12

あいの里地区町内会連絡協議会
会長
川田 忠氏(75歳)



町内会活動の潤滑油的な役割を果たしている「あいの里地区町内会連絡協議会」。会長2期目(任期1年)の川田忠氏に聞きました。

情報共有を活動に生かす ～町内会活動を後方支援～

▼お生まれはどちらですか？

川田 札幌の北21条界隈です。当時はまだ、地下鉄はもちろん市電も走っていませんでしたね。あいの里に移ってきたのは平成4年1月ですから、23年になります。

▼あいの里地区町内会連絡協議会は連合町内会とも違うし、単位町内会でもない。どんな活動をされているのですか？

川田 拓北・あいの里連合町内会が発足したのは平成8年。連絡協議会はそれより前、平成6年なので、歴史は古いのです。あいの里地区の33町内会で構成し、町内会長同士の親睦と協調、連携をはかることで町内会活動の円滑化や活性化に資することを目的にしています。昔は町内会によってサービスの格差があって、それを是正する活動もあったのですが、いまはもうないですね。

▼それも大事な役割でしたね。

川田 現在は、単位町内会間の情報交換が主です。見守りボランティア活動や自主防災活動など連町の方針の下で活動するのですが、どうしたらうまくいくか、各町内会は悩んでいます。成功事例や悩みなど町内会間で情報を共有し、活動に生

かしていきます。自主防災では先日、各町内会の活動状況のアンケート調査を行い、それを集約して意見交換を行いました。

▼痒いところに手が届く、重要な後方支援活動ですね。

川田 町内会長同士がざっくばらんに話ができればいいと思っています。あと、防犯活動の一環で、街路灯や街路樹の点検調査も行っています。札幌市の土木センターの方が一緒に巡回するので、枝払いや街路灯の取り替えなどすぐ対応してくれます。また、拓北高校の生徒と一緒に、高校からあいの里公園までの間の道路清掃や交通安全活動を毎年、行ってきました。拓北高校がなくなり、新しくできる高等支援学校の通学路の安全確保をどうするかが今後の検討課題です。

▼エスパシオ町内会長もされてますね。

川田 会長は3年目ですが、定年で退官してからゴルフ同好会と麻雀同好会をつくり、毎週1～2回活動してきました。

▼ずいぶん活発な同好会ですね。身体と頭の老化防止にもなる。これからも大いに活躍してください。ありがとうございます。

新人職員紹介

～2015年度 その④～

前号より引き続き新人職員を紹介いたします。

①出身地(都道府県と市町村名) ②趣味・特技 ③好きな食べ物 ④尊敬する人 ⑤夢・目標

札幌協働保育園 **さいとう 齊藤 まどか**



- ①江別市
- ②パンを作ること、ランニング
- ③ラーメン、スープカレー
- ④母
- ⑤子どもを産んでお家を建てること

札幌協働保育園 **さとう あやこ 佐藤 礼子**



- ①札幌市
- ②温泉めぐり
- ③チョコレート
- ④とってもやさしかった祖母
- ⑤豪華客船で世界一周旅行

地域行事の紹介

秋の恒例行事

9月6日(日)茨戸川緑地パークゴルフ場で今年も拓北・あいの里PG大会(拓北・あいの里地区センター主催)が120名の参加で行われました。

また、12日(土)には、あいの里仲良し会主催「敬老の集い」が拓北・あいの里地区センター多目的ホールで、こちらも120名が参加して盛大に行われました。大正琴・日本舞踊・演歌・最後にお馴染みの「阿波踊り」を皆さん大いに楽しめました。



かわいい日本舞踊



五郎連による阿波踊り



大正琴の演奏

事業所紹介コーナー 13

あいの里協働保育園

【認可保育所・乳幼児併設】 定数60名

2012年4月開設

札幌市北区南あいの里5丁目6-1

TEL 011-770-5300 / FAX 011-770-5301



あいの里協働保育園は平成24年4月に南あいの里に開園しました。開園当初はまだ空き地だった園の周りにも住宅がどんどん建ち、定員60名の保育園ではありますが、現在は71名の子どもたちが通って来てくれています。4年目を迎えて、地域のニーズや保育園の課題なども見え始め、職員研修や保育環境の整備に励みながら、この保育園を必要としてくれる子どもたちと保護者のみなさまが、より一層安心して安全に生活していける保育園を目指し試行錯誤しているところです。

今年、年長さんがプランターで育てたキュウリが豊作となりました。「カップもやっぱりキュウリでしょ？」という絵本の影響もあり、キュウリの更なる豊作を願う「カップ祭り」を開催したり、絵本に出てくるキュウリの自動販売機を作ったり、子どもたちの楽しい気持ちを保育士と一緒に形にして盛り上がっています。今後も遊びを通して学ぶことを大切にしながら、子どもたちにとっても保護者にとっても職員にとっても、大好きな場所であり続けられるよう努力していきたいと思っています。

【文・あいの里協働保育園 田鎖 和美】



<共催>
拓北・あいの里地区センター / 社会福祉法人 札幌協働福祉会

第8回 あいの里ジャズナイト

JAZZ NIGHT 2015

10/30 金

18:30 開場 19:00 開演

会場：拓北・あいの里地区センター
(札幌市北区あいの里1条6丁目1-1)

【お問合せ】
拓北・あいの里地区センター
TEL 011-778-8000 FAX 011-778-3366
ドリームセンターあいあい(担当：荒井)
TEL 011-374-7282 FAX 011-374-7283

山の家通信



仁木町冷水峠にある当法人の保養施設
“山の家きょうどう”からの通信を掲載
します。

今夏も12家族が滞在

～ゲストハウス利用者は延べ116家族に～

子どもたちの喧噪、セミの大合唱、踏み板の上を走るカナチョロ、
青空をバックに立ち上がる入道雲、あの8月の光景が嘘のように、
山の家はすっかり秋の色合いに染まっています。

9回目を数える「おもいっきり夏(冬)休み in 北海道」に参加した
子どもたちの他に、せめて夏休みだけでも放射能から避難したいと、ゲストハウスを利用するご家族で今
年も山の家は賑わいました。その多くは就学前のお子さんのいるご家族でした。福島県のみならず、宮城
県の仙台市・大崎市、関東の東京・千葉からもあわせて12家族。

「娘の目はいつも充血していたのに、ここに来て白目に戻った」と喜ぶお母さん(放射能は目や鼻などの
粘膜に影響すると言われます)。外遊びも制限なしにできるし、向こうではできない海水浴ができるなど、
山の家での生活は健康回復、免疫力のアップに大いに効果があるようです。

あるお母さんからの礼状。「一昨日の朝、無事仙台に着き、息子は昨日から元気に学校に通い始めまし
た。娘は、外に遊びに行ってもいい? と、山の家での外遊びが忘れられないようです…。まだ帰ってきた
ばかりですが、山を家の清々しい空気が恋しく、制限された生活が苦しいです。外で思いっきり遊んだり、
洗濯物を外に干したり、ペットボトルのお水も要らないあたりまえの生活ができないなんて…。そんなあ
たりまえの生活が幸せだったことを原発事故後に気づき、反省の日々です」。

ゲストハウスは家族単位の受け入れ先として、2012年の夏から利用してもらっています。この8月で
利用者数は延べ116家族になりました。

別れはいつもつらい。
福島では制限された生活、
不安な日々が待っている。



HSK たんぽぽ通信 第35号

◎住所変更や送付不要の方は、電話またはFAXにて
下記までお知らせ下さい。

10月1日より連絡先が変わりました。
おかけ間違いのないよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉法人 札幌協働福祉会
アクティビティー・サポートセンター協力会
TEL 011-770-5225
FAX 011-770-5112 (福田、松岡)

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可 HSK通巻523号
[発行] 2015年10月10日発行(毎月10日発行) [定価]20円
[編集人] 社会福祉法人 札幌協働福祉会
アクティビティー・サポートセンター協力会 牧野秋夫
〒002-8071 札幌市北区あいの里1条6丁目1-2
TEL 011-770-5225 / FAX 011-770-5112
[発行人] 北海道障害者団体定期刊行物協会 細川久美子